

2023 年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2023 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

人文科学研究所は 2023 年度において 3 つの重点プロジェクトと、8 つの研究助成プログラムを組織し、人文科学・社会科学の深化と刷新を試みた。各重点プロジェクトは、それぞれ(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」、(2)「現代における間文化現象学の新展開」、(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」をテーマに研究を行っている。(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」においては、当研究所内で 50 年余りの歴史を有する近代日本思想史研究会が中心となり、中期的テーマを設定し研究成果を蓄積している。(2)「現代における間文化現象学の新展開」においては、現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角を模索し、人間科学に関する学際的な研究を積極的に蓄積している。(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」では、東アジア地域に焦点を絞り、各地域の特徴や動態を明確にするべく、「東アジアの福祉レジームと市民社会」を考察すると同時に、グローバルな移動(mobilities)によって特徴づけられる世界が有するに至っている課題と可能性を浮彫にするべく、「グローバルな移動(mobilities)の中の世界」を考察している。そして、これら両側面を有機的に結びつけながら、総合的・豊穡な研究を実現しつつある。

研究成果の発信と社会貢献

上記の長期目標をふまえて 2023 年度においては、以下のような研究成果の発信と社会貢献を具体的に行った。

まず(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」(代表:小関素明)では、本年度は 8 本の論稿と 1 本の書評よりなる特集号「近代日本の植民地支配と『戦争体験』の受容」と銘打った特集号(『人文科学研究所紀要』No.137)を刊行することができた。また、ようやく新型コロナウイルスが沈静化したことをうけて会員の研究活動が活性化したことによって、3 冊の書籍、61 本の論稿、30 本の口頭報告がなされた。さらに計 6 回の研究会を開催し、単著 4 冊、共編著 1 冊の計 5 冊に及ぶ書籍を刊行できている。(2)「現代における間文化現象学の新展開」(代表:加國尚志)では、2023 年度は海外からの招聘者を含む講演会やシンポジウムを開催し、積極的な活動をおこなった。また『立命館大学人文科学研究所紀要』No.136 において、「エマヌエーレ・コッチャの哲学——立命館大学での講演」「(翻訳者の使命)はいかに受け継がれたのか——ベンヤミン『翻訳者の使命』と、20 世紀フランスを中心とするその受容」「自己と人格性——ダン・ザハヴィ&ソフィー・ロイドルト講演会」という、3 つの小特集を編纂し刊行するだけでなく、論集『デリダのハイデガー講義を読む』(亀井大輔・長坂真澄編、白水社)を刊行した。(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」(代表:遠藤英樹)では、国内外で 20 回以上の講演会・シンポジウム・ワークショップ・研究会を開催した。特に国際シンポジウムでは、「Global threats and the European Convention on Human Rights: from climate change to Russia's war on Ukraine」や、立命館大学と南オーストラリア大学との研究協力活動の中で「ツーリズム・モビリティとデジタル革命に関する(新たな社会理論)の構築」を開催した。また 30 本以上の著書と約 40 本の論文を刊行した。

若手研究者の支援

人文科学研究所では本年度も、読書会、研究会・ワークショップにおける発表、調査・フィールドワークなど、多様な機会をとらえて、若手研究者の育成をはかってきた。具体的には若手研究者自身がワークショップをコーディネートできる機会を提供したり、若手研究者育成を目的に国内外の最新業績を批判的に検討する読書会を開催したりした。さらに博士後期課程に在学する大学院生に対しても、積極的に研究会・ワークショップにおける発表機会を提供するとともに、現地調査・フィールドワークを実施した。その具体的な成果として、本研究所から育った若手研究者が大学教員の職を得たり、他研究機関の研究員に採用されたり、民間財団の研究助成に採択されたりしている。

以上、2023 年度の研究活動においても所期の目的を順当に推進できたと言える。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長	遠藤 英樹	文学部	教授
運営委員	小関 素明	文学部	教授
	加國 尚志	文学部	教授
	亀井 大輔	文学部	教授
	神田 孝治	文学部	教授
	本田 稔	法学部	教授
	山本 理佳	文学部	教授
	市井 吉興	産業社会学部	教授
	加藤 雅俊	産業社会学部	准教授
	川村 仁子	国際関係学部	教授
	越智 萌	国際関係学部	准教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	伊勢 俊彦	文学部	教授
	井上 充幸	文学部	教授
	ウェルズ 恵子	文学部	特任教授
	小野 真由美	文学部	准教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	河原 典史	文学部	教授
	鈴木 崇志	文学部	准教授(任期制)
	谷 徹	文学部	特任教授
	長澤 麻子	文学部	教授
	永守 伸年	文学部	准教授
	萩原 正樹	文学部	教授
	花崎 育代	文学部	教授
	林 芳紀	文学部	教授
	松尾 卓磨	文学部	特任助教
	森田 耕平	文学部	特任助教
	漆原 良	産業社会学部	教授
	江口 友朗	産業社会学部	教授
	櫻井 純理	産業社会学部	教授
	鎮目 真人	産業社会学部	教授
	住田 翔子	産業社会学部	准教授
	日暮 雅夫	産業社会学部	特任教授
	松田 亮三	産業社会学部	教授
	石崎 祥之	経営学部	教授

		北村 理依子	国際関係学部	助教
		Kim Viktoriya	国際関係学部	准教授
		白戸 圭一	国際関係学部	教授
		龍澤 邦彦	国際関係学部	特任教授
		園田 節子	国際関係学部	教授
		渡邊 松男	国際関係学部	教授
		駒見 一善	国際教育推進機構	准教授
		羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授
		藤田 佳代子	グローバル教養学部	教授
		石原 悠子	グローバル教養学部	准教授
		小林 ハッサル 柔子	グローバル教養学部	准教授
		石田 雅芳	食マネジメント学部	教授
		高田 剛司	食マネジメント学部	教授
		勝村 誠	政策科学部	教授
		美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
		神島 裕子	総合心理学部	教授
		松井 信之	立命館アジア・日本研究機構	助教
		横田 祐美子	衣笠総合研究機構	助教
	学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	伊故海 貴則	衣笠総合研究機構
酒井 麻依子			衣笠総合研究機構	専門研究員
松田 智裕			衣笠総合研究機構	専門研究員
宮下 祥子			衣笠総合研究機構	専門研究員
柳川 耕平			衣笠総合研究機構	専門研究員
李 定恩			衣笠総合研究機構	専門研究員
鈴木 裕貴			衣笠総合研究機構	研究員
八木 達祐			先端総合学術研究科	特別研究員
角田 燎			立命館アジア・日本研究機構	専門研究員
十河 和貴			立命館アジア・日本研究機構	初任研究員
② リサーチアシスタント		蛭子 良風	文学研究科	博士課程後期課程
		若杉 直人	文学研究科	博士課程後期課程
		田丸 幹	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Jonali SARMA	国際関係研究科	博士課程後期課程
③ 大学院生		印牧 真明	文学研究科	博士課程後期課程
		海野 大地	文学研究科	博士課程後期課程
		落合 優翼	文学研究科	博士課程後期課程
		木多 悠介	文学研究科	博士課程後期課程
		佐々木 梓	文学研究科	博士課程後期課程
		田中 龍	文学研究科	博士課程後期課程
		田 宇博	文学研究科	博士課程後期課程
		中井 悠貴	文学研究科	博士課程後期課程
		中村 凌太郎	文学研究科	博士課程後期課程
		福井 優	文学研究科	博士課程後期課程

		松原 大介	文学研究科	博士課程後期課程	
		吉水 希枝	文学研究科	博士課程後期課程	
		鷺尾 涉	文学研究科	博士課程後期課程	
		岡田 潤哉	文学研究科	博士課程前期課程	
		JIANG Zhuoran	文学研究科	博士課程前期課程	
		新貝 悠	文学研究科	博士課程前期課程	
		田畑 勇也	文学研究科	博士課程前期課程	
		永松 天騎	文学研究科	博士課程前期課程	
		秦 知央	文学研究科	博士課程前期課程	
		藤井 義也	文学研究科	博士課程前期課程	
		松原 一智	文学研究科	博士課程前期課程	
		LI Weilin	文学研究科	博士課程前期課程	
		WANG Zihao	文学研究科	博士課程前期課程	
		北 和樹	国際関係研究科	博士課程後期課程	
		塩野 仁志	社会学研究科	博士課程後期課程	
		下村 晃平	社会学研究科	博士課程後期課程	
		森 雛	社会学研究科	博士課程前期課程	
		矢沢 有樹	社会学研究科	博士課程前期課程	
	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)		猪原 透	衣笠総合研究機構	特別研究員(RPD)
			丸山 彩	衣笠総合研究機構	特別研究員(RPD)
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		青柳 雅文	文学部	非常勤講師	
		浅沼 光樹	文学部	非常勤講師	
		有村 直輝	文学部	授業担当講師	
		神田 大輔	文学部	非常勤講師	
		古 文英	文学部	授業担当講師	
		小林 琢自	文学部	非常勤講師	
		田邊 正俊	文学部	非常勤講師	
		寺澤 優	文学部	授業担当講師	
		藤巻 正己	文学部	授業担当講師	
		松葉 祥一	文学部	授業担当講師	
		松葉 類	文学部	授業担当講師	
		山口 一樹	文学部	授業担当講師	
		吉田 武弘	文学部	授業担当講師	
		塩見 俊一	産業社会学部	非常勤講師	
		平石 貴士	産業社会学部	授業担当講師	
	梶居 佳広	教養教育センター	非常勤講師		
客員協力研究員		赤澤 史朗	立命館大学	名誉教授	
		赤阪 辰太郎	日本学術振興会	特別研究員 PD	
		粟谷 佳司	OIC 総合研究機構	プロジェクト研究員	

	五十嵐 美華	人文科学研究所	客員協力研究員
	池田 喬	明治大学文学部	教授
	伊藤 潤一郎	新潟県立大学国際地域学部	講師
	伊藤 嘉高	新潟大学	准教授
	伊吹 友秀	東京理科大学	准教授
	殷 暁星	広島大学	助教
	穎原 善徳	人文科学研究所	客員協力研究員
	ガジェヴァ・ナデジュダ	人文科学研究所	客員協力研究員
	片桐 雅隆	千葉大学	名誉教授
	川崎 唯史	東北大学病院	特任講師
	川口 由香	人文科学研究所	客員協力研究員
	川瀬 雅也	神戸女学院大学文学部	教授
	韓 準祐	多摩大学	准教授
	神崎 宣次	南山大学国際教養学部	教授
	紀平 知樹	兵庫県立大学看護学部	教授
	黒岡 佳証	福州大学（中華人民共和国）	副教授
	郷原 佳以	東京大学大学院総合文化研究科	教授
	小西 真理子	大阪大学大学院文学研究科	准教授
	佐々木 拓	金沢大学人間社会研究域	教授
	佐藤 太久磨	漢陽大学校国際文化大学日本学科	助教授
	佐藤 勇一	大東文化大学	准教授
	佐藤 愛	日本学術振興会	特別研究員 (RPD)
	島田 龍	人文科学研究所	客員協力研究員
	杉本 俊介	慶応義塾大学商学部	准教授
	須藤 廣	法政大学大学院	教授
	谷崎 友紀	せとうち観光専門職短期大学	助教
	種田 博之	産業医科大学	講師
	長尾 伸一	産業社会学部	客員教授
	中井 治郎	龍谷大学	非常勤講師
	長坂 真澄	早稲田大学国際教養学部	教授
	中澤 英輔	東京大学大学院医学系研究科	講師
	中澤 瞳	日本大学通信教育部	准教授
	中谷 哲弥	奈良県立大学	教授
	奈良 勝司	広島大学	教授
	西田 彰一	国際日本文化研究センター	プロジェクト研究員
	西山 雄二	東京都立大学人文科学研究科	教授
	二村 洋輔	至学館大学	助教

	橋本 和也	京都文教大学	名誉教授
	林 春伽	仙台青葉学院短期大学	助教
	原 一樹	京都外国語大学	教授
	廣瀬 浩司	筑波大学人文社会系	教授
	藤木 篤	芝浦工業大学工学部	准教授
	堀野 正人	二松学舎大学	特別招聘教授
	本郷 均	東京電機大学工学部	教授
	Michel Dalissier	金沢大学国際基幹教育院	准教授
その他の学外者	Benjamin Ireland	French and Director of Asian Studies, Texas Christian University (USA)	Associate Professor
	Christine Dematos	the University of Notre Dame Australia (Australia)	Associate Dean Research,
	Muhammad Tri Andika Kurniawan	Bakrie University	Lecturer,
	Rowena Ward	University of Wollongong (Australia)	Senior Lecturer,
	Sophie Constable	Australian National University (Australia)	
	Shinnnosuke Takahashi	Victorian University of Wellington (New Zealand)	Lecturer
	アンジェロ・イシ	武蔵大学	教授
	井澤 友美	在インドネシア大使館	専門調査員
	猪俣 貴幸	衣笠研究機構	客員研究員
	上田 滋夢	追手門学院大学	教授
	岡本 直美	岐阜工業高等専門学校	講師
	加茂 利男	大阪市立大学	名誉教授
	川口 博子	大阪大学	学振 PD
	河原 梓水	福岡女子大学	准教授
	岸川 毅	上智大学	教授
	北村 知之	福井県立大学	名誉教授
	久保田 隆	帝京大学	助教
	クロス 京子	京都産業大学	教授
	斎藤 デビッド 宥雅	国際刑事裁判所	法務官補
	佐藤 誠	立命館大学	名誉教授
	ジュリア・ペサ	京都外国語大学	非常勤教授
	芹澤 隆道	山口県立大学	講師
	太 清伸	国際刑事裁判所	分析官補
	辻 正博	京都大学	教授
	長島 修	立命館大学	名誉教授
	中谷 義和	立命館大学	名誉教授
林 夏木	四国大学短期大学	准教授	

	藤野 真挙	茨城キリスト教大学	講師
	真杉 侑里	韓国東儀大学校	助教授
	松下 冽	立命館大学	名誉教授
	松野 周治	立命館大学	名誉教授
	丸山 裕美子	愛知県立大学	教授
	三枝 暁子	東京大学	教授
	三谷 俊	中京大学	任期制講師
	横濱 和弥	信州大学	准教授
	米田 富太郎	元中央学院大学	客員教授
	李 真熙	同志社大学	大学院
	路 劍虹	江蘇海洋大学日本語学科	講師
	研究所構成員 計 198 名 (うち学内の若手研究者 計 44 名)		

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	遠藤英樹	観光が世界をつくる——メディア・身体・リアリティの観光社会学	共著	2023年7月	明石書店	須藤廣・松本健太郎・山口誠・神田孝治・高岡文章	PP. 33~47
2	遠藤英樹	メディア・リミックス——デジタル文化の(いま)を解きほぐす	共著	2023年11月	ミネルヴァ書房	谷島貫太・松本健太郎	PP. 180~192
3	遠藤英樹	移動時代のツーリズム——動きゆく観光学	共著	2023年11月	ナカニシヤ出版	神田孝治・高岡文章・鈴木涼太郎・松本健太郎	PP. 28~29、142~149、202~209
4	遠藤英樹	都市と文化のメディア論——情報化するコンテンツ／ツーリズム／トランスナショナルコミュニケーション	共著	2024年3月	ナカニシヤ出版	堀野正人・谷島貫太・松本健太郎	PP. 91~102
5	遠藤英樹	ランドスケープを構想する(はじめて学ぶ芸術の教科書 デザイン編)	共著	2024年3月	京都芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎	稲田多喜夫・加藤友規・河合健・下村泰史・仲隆裕・長谷川一真	PP. 212~215
6	神田孝治	移動時代のツーリズム——動きゆく観光学	共著(編著)	2023年12月	ナカニシヤ出版	遠藤英樹・高岡文章・鈴木涼太郎・松本健太郎	PP. 1~17、20~27、200~201、210~211、212~214
7	神田孝治	観光が世界をつくる——メディア・身体・リアリティの観光社会学	共著(編著)	2023年7月	明石書店	須藤廣・遠藤英樹・山口誠・松本健太郎・高岡文章	PP. 141~162
8	山本理佳	移動時代のツーリズム——動きゆく観光学』	共著	2023年12月	ナカニシヤ出版	神田孝治・遠藤英樹・松本健太郎・高岡文章・鈴木涼太郎編	PP. 68~69
9	山本理佳	日本の都市地理学研究	共著	2024年3月	古今書院	阿部和俊	PP. 256~266
10	高田剛司	ガストロノミーツーリズム——食文化と観光地域づくり	共著	2023年6月	学芸出版社	尾家建生・杉山尚美	
11	須藤廣	観光が世界をつくる——メディア・身体・リアリティの観光社会学	共著	2023年7月	明石書店	遠藤英樹・山口誠・松本健太郎・神田孝治・高岡文章	PP. 15~31、287~291
12	須藤廣	観光の公共創造性を求めて——ポストマスツーリズムの	共著	2023年12月	公人舎	上山肇・増淵敏之	PP. 3~7、16~36

		地域観光政策を再考する					
13	種田博之	葉害とはなにか——新しい葉害の社会学	共著	2023年4月	ミネルヴァ書房	本郷正武他編	PP. 155～172、176～178
14	橋本和也	移動時代のツーリズム——動きゆく観光学	共著	2023年12月	ナカニシヤ出版	神田孝治・遠藤英樹・松本健太郎・高岡文章・鈴木涼太郎編	PP. 172～179
15	安田峰俊	北関東「移民」アンダーグラウンド	単著	2023年2月	文藝春秋		
16	安田峰俊	戦狼中国の対日工作	単著	2023年12月	文藝春秋		
17	松本健太郎	都市と文化のメディア論——情報化するコンテンツ／ツーリズム／トランスナショナルコミュニケーション	共著	2024年3月	ナカニシヤ出版	堀野正人・谷島貴太	PP. 127～140
18	松本健太郎	移動時代のツーリズム——動きゆく観光学	共著	2023年11月	ナカニシヤ出版	神田孝治・遠藤英樹・高岡文章・鈴木涼太郎	PP. 18～19、30～37、122～123、154～161
19	松本健太郎	メディア・リミックス——デジタル文化の(いま)を解きほぐす	共著	2023年11月	ミネルヴァ書房	谷島貴太	PP. 139～151
20	松本健太郎	観光が世界をつくる——メディア・身体・リアリティの観光社会学	共著	2023年7月	明石書店	須藤廣・遠藤英樹・山口誠・神田孝治・高岡文章	PP. 253～270
21	麻生将	都市と文化のメディア論——情報化するコンテンツ／ツーリズム／トランスナショナルコミュニケーション	単著	2024年3月	ナカニシヤ出版	堀野正人・谷島貴太・松本健太郎	PP. 191～199
22	薬師寺浩之	移動時代のツーリズム——動きゆく観光学	単著	2023年12月	ナカニシヤ出版	神田孝治・遠藤英樹・高岡文章・鈴木涼太郎・松本健太郎	PP. 108～109
23	薬師寺浩之	入門観光学 [改訂版]	単著	2024年2月	ミネルヴァ書房	竹内正人・竹内利江・山田浩之	PP. 168～181
24	間中光	移動時代のツーリズム——動きゆく観光学	共著	2023年11月	ナカニシヤ出版	神田孝治・遠藤英樹・高岡文章・鈴木涼太郎・松本健太郎	PP. 192～199
25	間中光	地域に学び、地域を創る	共著	2024年3月	追手門学院大学出版会	藤田武弘編	PP. 19～36
26	Yasuda Shin	Development of Tourism Governance for Religious Tourism: A New Form of Local Community in Najaf, Iraq. (<i>Host Communities and Pilgrimage Tourism: Asia and Beyond</i>)	単著	2023年4月	Springer	R. N. Prozano, J. M. Cheer & X/ M. Santos (Eds.)	PP. 35～47
27	安田慎	観光が世界をつくる——メディア・身体・リアリティの観光社会学	単著	2023年7月	明石書店	須藤廣・遠藤英樹・山口誠・松本健太郎・神田孝治・高岡文章	PP. 235～251
28	安田慎	移動時代のツーリズム——動きゆく観光学	単著	2023年12月	ナカニシヤ出版	神田孝治・遠藤英樹・高岡文章・鈴木涼太郎・松本健太郎	PP. 90～97
29	角田燎	陸軍将校の戦後史	単著	2024年3月	新曜社		
30	鎮目真人	福祉と協働	共著	2023年9月	ミネルヴァ書房	金子勇・吉原直樹・三重野卓	PP. 193～229
31	鎮目真人	福祉社会学文献ガイド	共著	2023年11月	学文社	福祉社会学会	PP. 304～312
32	川村仁子	『危機管理とグローバル・ガバナンス』	共著	2024年3月	芦書房	峯川浩子編	PP. 173～194
33	亀井大輔	デリダのハイデガー講義を読む	共著	2023年11月	白水社	長坂真澄ほか	PP. 7～25、117～151
34	永守伸年	信頼と裏切りの哲学	単著	2024年2月	慶應義塾大学出版会		PP. 1～256
35	古文英	幕末期の<陽明学>と明末儒学	単著	2024年2月	春風社		

36	島田龍	左川ちか モダニズム詩の明星	共著	2023年10月	河出書房新社	川村湊	
37	島田龍	左川ちか論集成	共著	2023年11月	藤田印刷エクセレントブックス	川村湊	
38	市井吉興	『現代スポーツ評論』第49号	共著	2023年11月	創文企画	住田翔子・塩見俊一・平石貴士・三谷舜	
39	松下冽	新自由主義の呪縛と深層暴力	共著	2023年	ミネルヴァ書房.	根健至	
40	五十嵐美華	人権保障と地域国際機構:アフリカ連合の役割と可能性	単著	2024年	晃洋書房		
41	Matsui, Nobuyuki	Miki Kiyoshi and the Crisis of Thought	共著	2024年	Chisokudō.	Fernando Wirtz	
42	美馬達哉	天才たちのインテリジェンス	共著	2024年	ポプラ社	佐藤優	PP. 167~185
43	美馬達哉	「過剰医療」の構造	共著	2024年	ビジネス社	藤井聡	PP. 192~200

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	遠藤英樹	社会に定位されるフィジカル=バーチャルな現実空間——オルデンバーグ「サードプレイス」論再考	単著	2023年6月	月刊 地理、68(6)		PP. 53~60	無
2	遠藤英樹	「メディア誘発型観光」研究の刷新——観光とメディアが接合するプラットフォームの「政治的無意識」	単著	2023年9月	観光学評論、11(2)		PP. 101~113	有
3	遠藤英樹	観光という「希望の原理」——「グローバルな複雑性」を加速させよ!	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、138		PP. 5~24	有
4	羽谷沙織	カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承と変容に関するエスノグラフィ	単著	2024年2月	名古屋大学教育発達科学研究科 博士号請求論文		PP. 1~426	有
5	高田剛司	ガストロノミーツーリズムのアトラクションとしての食文化ミュージアム	単著	2023年12月	日本観光研究学会全国大会学術論文集、38巻		PP. 417~420	無
6	轟博志	時空間メディアとしての鉄道駅名に対する一考察	共著	2023年12月	畿甸文化研究 44巻2号	Kim Somin	PP. 29~45	有
7	轟博志	山経表の系譜についての一考察	単著	2023年10月	政策科学 30巻3号		PP. 215~231	無
8	種田博之	医学教育においてなぜ社会学を学ぶ必要があるのか	単著	2023年8月	日本保健医療社会学サイト上に掲載		日本保健医療社会学サイト	無
9	種田博之	報告へのコメント兼総括	単著	2023年8月	日本保健医療社会学サイト上に掲載		日本保健医療社会学サイト	無
10	種田博之	「教育の困難」——薬害にかんする公式見解と社会学的発見のずれ	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、138		PP. 203~224	有
11	橋本和也	「感染症とともにある観光学」の試み——感染症の人類学を参照し	単著	2023年11月	立命館地理学 第35号		PP. 1~13	有

		て		月				
12	橋本和也	観光研究のアフェクト (情動) 論的転回—— 「感情ネクサス」の生 成変化について	単著	2024 年 3 月	立命館大学人文科 学研究所紀要、138		PP. 225～250	有
13	松本健太郎	観光とゲームの現代的 関係性を考える：倉敷 市におけるコンテンツ 空間の多層性を題材と して	単著	2023 年 9 月	観光学評論、11(2)		PP. 145～157	有
14	麻生将	観光における感染症と 排除	単著	2023 年 11 月	立命館地理学 第 35号		PP. 25～36	有
15	麻生将	20 世紀前半の東北六 県におけるプロテスタ ント教会の立地展開	単著	2024 年 3 月	二松学舎大学論集 第67号		PP. 17～32	無
16	韓準祐	ダークツーリズムが媒 介する「非日常」と「日 常」、そして(その)「間」 ——濟州4・3 事件を事 例として	単著	2024 年 3 月	多摩大学グローバ ルスタディーズ学 部紀要、16号		PP. 27～55	無
17	Yasuda Shin	Mapping Pilgrimage in the Marketplace: Social Contexts of Bisnis Hajj dan Umroh in Indonesia	単著	2023 年 10 月	International Journal of Religious Tourism and Pilgrimage, Vol. 11 No. 5		PP. 5～16	有
18	安田慎	ヴェナキュラー・ツー リズムからみる南アジ ア——宗教・聖地・観 光	単著	2024 年 3 月	イスラーム世界研 究、17 卷		PP. 126～133	有
19	安田慎	モルディブにおける国 内観光——グローバル なツーリズムにおける ヴェナキュラーなリゾ ート文化	単著	2024 年 3 月	イスラーム世界研 究、17 卷		PP. 145～160	有
20	渡部瑞希	デジタル機器の妖怪学	単著	2023 年 4 月	帝京大学国際日本 学研究、第1号		PP. 89～100	有
21	谷崎友紀	「讃岐小豆島名所画」 と『西海道名所図会』 からみる『小豆嶋名所 図会』の作成工程と近 世小豆島の名所につい て	単著	2024 年 3 月	せとうち観光専門 職短期大学研究教 育開発会議、観光 振興研究、4-1		PP. 20～28	無
22	韓丹	産業社会のエコロジー 的転換	共著	2024 年 3 月	立命館大学人文科 学研究所紀要、139	長尾伸一	PP. 5～32	有
23	加藤里紗	北海道・東北地方にお けるアンケート調査か らみる日本のエネルギ ー貧困	単著	2024 年 3 月	立命館大学人文科 学研究所紀要、139		PP. 33～60	有
24	角田燎	(書評)清水亮『「軍都」 を生きる』	単著	2024 年 3 月	立命館大学人文科 学研究所紀要、139		PP. 229～236	有
25	下村晃平	ネオリベラリズム概念 の系譜	単著	2023 年 7 月	年報カルチュラル スタディーズ、11 卷		PP. 77～94	有
26	下村晃平	2020 年前後における 「ネオリベラリズム」 の使用例に関する考察	単著	2024 年 3 月	立命館大学人文科 学研究所紀要、139		PP. 107～130	有
27	鈴木裕貴	北九州の「被爆体験」	単著	2024 年 3	立命館大学人文科 学研究所紀要、139		PP. 205～228	有

				月				
28	加茂利男	さらば『ゴットム・ガゼット』	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、139		PP. 195～204	有
29	松田亮三	「コロナ後」に向けた地方公衆衛生行政の課題	単著	2023年4月	季刊『自治と月刊』、大月書店、91号		PP. 41～51	有
30	松田亮三	医療の必要の不足の社会的可視化	単著	2023年6月	貧困研究、貧困研究会、30号		PP. 5～13	有
31	松田亮三	人々の多様性と正面から向き合う取り組みを	単著	2023年8月	住民と自治、自治体研究社、724号		P. 4	有
32	松田亮三	医療同等性の徹底に向けて	単著	2023年11月	刑法雑誌、日本刑法学会、63巻1号		PP. 45～56	有
33	加藤雅俊	「半議院内閣制」としてのオーストラリア連邦	単著	2023年6月	年報政治学 2023-1、筑摩書房、2023年度1号		PP. 150～177	無
34	加藤雅俊	書評：社会政策学や比較福祉国家研究の世界標準を学び、最前線に触れる(『社会政策の考え方——現代世界の見取図』)	単著	2023年11月	書齋の窓、有斐閣、690号		PP. 71～76	無
35	加藤雅俊	書評：デイヴィッド・ガーランド(小田透訳)『福祉国家—救貧法の時代からポスト工業社会へ—』(白水社、2021年)	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、139		PP. 61～72	有
36	加藤雅俊	緊縮国家の政治的帰結	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、139		PP. 165～194	有
37	加藤雅俊	資本主義的民主主義の要諦としての「福祉国家」とその変容	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、139		PP. 131～164	有
38	加藤雅俊	現代社会が直面する諸課題に対して政治学が貢献できること	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、138		PP. 93～104	有
39	川村仁子	「国際公務としての先端科学技術ガバナンスの可能性」	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、138		PP. 61～92	有
40	亀井大輔	デリダと生物学主義の問題——デリダ『生死』講義を読む	単著	2024年3月	脱構築研究会『Supplements』、3号		PP. 88～99	無
41	亀井大輔	計算不可能なものへの知に向けて	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、138		PP. 43～59	有
42	亀井大輔	ベンヤミンを(翻訳)するデリダ——「ノバールの塔」について——	単著	2023年12月	立命館大学人文科学研究所紀要、138		PP. 163～180	有
43	谷 徹	鷺田清一と離一の現象学	単著	2023年4月	青土社『現代思想』5月臨時増刊号、特集・鷺田清一、2023 vol. 51～5		PP. 264～278	無
44	谷 徹	エッセイ：「間文化現象学研究センターへの創設」	単著	2023年11月	日本現象学会『現象学年報』39号		PP. 173～179	無
45	長澤麻子	ベンヤミンと詩の言語——『翻訳者の使命』	単著	2023年	立命館大学人文科学研究所紀要、136		PP. 97～116	有

		の成立「環境」をめぐる って		12 月				
46	黒岡佳柁	技術時代における人間 関係を中断させる他者 との邂逅——リンギス における「信頼」と「共 共同体」	単著	2023 年 12 月	立命館大学人文科学 研究所紀要、136		PP. 263～290	有
47	酒井麻依子	What makes a “Transparent” Body possible? On Intersectional Identity and Discrimination	単著	2023 年 12 月	立命館大学人文科学 研究所紀要、136		PP291～305	有
48	松葉類	種差を越える愛の困難 ——コッチャによる 「愛」が問うもの	単著	2023 年 12 月	立命館大学人文科学 研究所紀要、136		PP27～46	有
49	西山雄二	フランスにおける「翻 訳者の使命」の受容— —アントワヌ・ベル マンによる純粋言語と 翻訳不可能性の解釈を めぐって	単著	2023 年 12 月	立命館大学人文科学 研究所紀要、136		PP143～162	有
50	宮崎裕助	永遠の乖離としての純 粋言語——ポール・ド マンのベンヤミン「翻 訳者の使命」読解	単著	2023 年 12 月	立命館大学人文科学 研究所紀要、136		PP191～194	有
51	鈴木崇志	価値と他者はどのよう に経験されるか：現象 学的アプローチ	単著	2023 年 6 月	関西倫理学会『倫 理学年報』、53号		PP. 4～15	無
52	加國尚志	鷺田清一とメルロ・ポ ンティ～「スティル」 の現象学	単著	2023 年 4 月	現代思想51巻5号 総特集 鷺田清一		PP. 250～263	無
53	Kakuni Takashi	Lecture de l'Esthétique de Hegel par Merleau- Ponty	単著	2024 年 3 月	Chiasmi international 25		PP. 143～152	無
54	伊勢俊彦	農業の転換と動物倫理	単著	2023 年 11 月	豊田工業大学『豊 田工業大学ディス カッションペ～パ ～』29号		PP. 25～33	
55	小関素明	「戦争体験」の思想化 の苦闘—「絶望」を原 点にした精神の寄留地 の構築—	単著	2024 年 1 月	立命館大学人文科学 研究所紀要 137		PP. 207～243	有
56	小関素明	災害と人文社会科学が 向き合うべき課題—災 害は民主政治にどのよ うな影響を及ぼすのか—	単著	2024 年 3 月	立命館大学人文科学 研究所紀要 138		PP. 25～42	有
57	小関素明	大学における教養教育 の課題についての経験 的考察—歴史学からの 模索—	単著	2024 年 3 月	教養教育研究会編 『現代社会を拓く 教養知の探求』晃 洋書房		PP. 62～80	有
58	山口一樹	「自立をめぐる皇道派 と青年将校運動：思想 における機能性に注目 して	単著	2023 年 7 月	軍事史学会『軍事 史学』59-1		PP. 52～73	有
59	山口一樹	「五・一五事件と二・ 二六事件」「日本の参 戦」「日本の敗退」「戦 場での餓死・病死」「無 差別爆撃による被害」 「無条件降伏」	単著	2023 年 9 月	立命館大学国際平 和ミュージアム編 『図録立命館大学 国際平和ミュージ アム：PEACE× PIECE あなたのピ ースを探そう!』合		P. 49、56 PP. 65～68	無

					同出版			
60	山口一樹	滋賀県と新聞	単著	2024年1月	『展示図録 新聞記事からみた明治の湖国』滋賀県立公文書館		P. 2	無
61	山口一樹	史料紹介：大陽主義と国体（下）	単著	2024年2月	『立命館史学』43、立命館史学会		PP. 27～49	有
62	山口一樹	書評 後藤啓倫著『関東軍と満洲駐兵問題』	単著	2024年2月	『歴史評論』887、歴史科学協議会		PP. 102～106	有
63	山口一樹	県史編さんと新聞	単著	2024年2月	滋賀県立公文書館編『滋賀のアーカイブズ』 滋賀県立公文書館		PP. 4～5	無
64	十河和貴	” The Bottleneck in the Formation of “ ImperialJapan ” under International CooperationPrinciple after WW I: Focusing on the Tanaka Giichi Cabinet’ s Concept of Establishment of the Takumusho”	単著	2023年	<i>Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University, Vol. 5</i>		PP. 84～105	有
65	十河和貴	書評 湯川勇人著『外務省と日本外交の1930年代—東アジア新秩序構想の模索と挫折—』	単著	2023年	『国際安全保障』第51巻第2号		PP. 111～115	有
66	十河和貴	《研究報告》帝国日本政治史の構築に向けて：近代日本における責任内閣制の崩壊を拓務省から考える	単著	2023年	『立命館アジア・日本研究学術年報』4		PP. 77～83	有
67	十河和貴	東洋拓殖株式会社設立をめぐる政治動向——一九〇八年を中心に——（特集 「西園寺公望関係文書」 解題と史料紹介）	単著	2024年	『立命館 史資料センター紀要』7		PP. 133～154	有
68	福井優	「普通の人びと」が見た満洲事変：エゴ・ドキュメント研究の視座から	単著	2023年6月	『立命館大学国際平和ミュージアム資料研究報告』6		PP. 28～36	有
69	福井優	加藤周一研究動向	単著	2023年12月	『加藤周一現代思想研究センター報告』1		PP. 197～201	有
70	福井優	「思想運動」としての編集 鷲巣力氏オーラルヒストリー：第1回ジャーナリズムをめざして	共著	2023年12月	『加藤周一現代思想研究センター報告』1	平石知久	PP. 169～194	有
71	福井優	福岡天神フォーク集会の「ぼう」：フォークソング翻訳と福岡へ平連ハンパク「現場責任者」	共著	2024年3月	『立命館大学国際平和ミュージアム紀要』別冊2	平嶋康昌・番匠健一・大野光明	PP. 67～94	有
72	中井悠貴	白鳥敏夫と「八紘一宇」理念 —「皇国日本」による世界新秩序理念の導出をめぐる—	単著	2024年3月	『日本思想史研究会会報』40			有
73	中村凌太郎	明治時代外交的基礎過程有関外交官於日本外	単著	2023年	国立政治大学台湾史研究所『台湾興			有

		交黎明期問題的認知— 以日本駐清公 使館組織整備為中心—			東亜近代史 研究 論集』六			
74	落合優翼	鴨緑江管理問題からみ る「鮮満」関係：宇垣 一成・南次郎朝鮮総督 期に着目して	単著	2024 年 1 月	立命館大学人文科 学研究所紀要 137		PP. 39～64	有
75	猪原透	過剰人口」と近代日本 の社会学—人口論史に おける米田庄太郎—	単著	2023 年	『日本思想史学』 55		PP. 118～135	有
76	猪原透	書評：山辺春彦・鷲巢 力『丸山眞男と加藤周 一——知識人の自己形 成』筑摩選書、2023 年	単著	2023 年	『加藤周一現代思 想研究センター報 告』1		PP. 207～211	有
77	梶居佳広	憲法改正論議における 「経済」問題—内閣憲 法調査会の活動を中心 に	単著	2023 年 11 月	日本経済史研究所 編『歴史からみた 経済と社会（日本 経済史研空所開所 90 周年記念論文 集）』（思文閣出版		PP. 533～561	有
78	寺澤優	研究テーマと史料保 存・公開の公平性	単著	2023 年 7 月	『CROSS ROADS』 7、2023 年 7 月			有
79	寺澤優	（講演記録）戦前日本 の私娼と性風俗 黙認 と弾圧のはざままで揺れ る売買春	単著	2024 年	『アジア・ジェン ダー文化学研究』8		PP. 52～58	有
80	吉田武弘	「議會政治」の形成と 兩院関係問題—初期議 会期を中心に—	単著	2024 年 2 月	『日本史研究』738		PP. 138～160	有
81	奈良勝司	尊王思想：『尊王』と『佐 幕』は対立軸ではなか った？	単著	2023 年 4 月	町田明広編『幕末 維新史への招待』 山川出版社		PP. 50～61	
82	奈良勝司	<書評>三谷博著『日 本史のなかの「普遍」： 比較から考える「明治 維新』』	単著	2023 年 5 月	『歴史評論』877		PP. 93～97	有
83	奈良勝司	近代日本のアイデンテ ィティ構造と変遷 — 総力戦・実学・コミュ ニティー	単著	2023 年 6 月	『日韓次世代学術 フォーラム 20 周 年記念 国際学術 大 会 PROCEEDINGS』		PP. 12～16	有
84	奈良勝司	世界史のなかの『明治 維新』	単著	2023 年 9 月	『岩波講座 世界 歴史 16 国民国家 と帝国 一九世 紀』岩波書店		PP. 96～97	有
85	佐藤太久磨	帝国日本の「民主主義」 ——「植民地議會」設 置論と普選の法理	単著	2024 年 1 月	立命館大学人文科 学研究所紀要 137		PP. 65～98	有
86	河原梓水	家畜の生と人間の身体 —土路草—「潰滅の前 夜」・「魔教圏 No. 8」論	単著	2023 年 9 月	『昭和文学研究』 87		PP. 43～57	有
87	河原梓水	おかしな挿絵、不思議 な挿絵—昭和「SM」雜 誌における挿絵の世界 （日本語・英語併記）	単著	2024 年 2 月	『Roca』4		PP. 60～67	有
88	河原梓水	「奇書」としての『家 畜人ヤプー』	単著	2023 年 6 月	『ユリイカ』55-9		PP. 201～205	有
89	河原梓水	『狂気な倫理』総評に 対する執筆者からの応 答	共著	2024 年 3 月	『臨床哲学ニュー ズレター』(6)	小西真理 子・高木美 歩・貞岡美 伸・鹿野由 行・石田仁・ 小田切建太	PP. 17～26	有

						郎・山本由美子・柏崎郁子・北島加奈子・笹谷絵里		
90	河原梓水	『狂気な倫理』第II部の執筆者からの応答	共著	2024年3月	『臨床哲学ニューズレター』(6)	鹿野由行・石田仁・小田切建太郎・山本由美子	PP. 56~67	有
91	河原梓水	『狂気な倫理』第III部の執筆者からの応答	共著	2024年3月	『臨床哲学ニューズレター』(6)	柏崎郁子・北島加奈子・笹谷絵里・小西真理子	PP. 73~81	有
92	島田龍	「展望 個人全集を編む、本を売ること」『左川ちか全集』の試みー	単著	2023年5月	『日本近代文学』108		PP. 140~145	有
93	島田龍	川崎家の男たち 表現者・編集者の系譜	単著	2023年10月	川村湊・島田龍編『左川ちか モダンニズム詩の明星』河出書房新社		PP. 111~113	無
94	島田龍	女たちの金光教	単著	2023年10月	川村湊・島田龍編『左川ちか モダンニズム詩の明星』河出書房新社		PP. 114~118	無
95	島田龍	編集者 左川ちかと銀座	単著	2023年10月	川村湊・島田龍編『左川ちか モダンニズム詩の明星』河出書房新社		PP. 119~123	無
96	島田龍	左川ちか 追憶詩の系譜	単著	2023年10月	川村湊・島田龍編『左川ちか モダンニズム詩の明星』河出書房新社		PP. 175~178	無
97	島田龍	資料紹介：ギグリーめぐり	単著	2023年10月	川村湊・島田龍編『左川ちか モダンニズム詩の明星』河出書房新社		PP. 179~182	無
98	島田龍	資料紹介：左川ちか書簡	単著	2023年10月	川村湊・島田龍編『左川ちか モダンニズム詩の明星』河出書房新社		PP. 183~188	無
99	島田龍	左川ちか100年の物語	単著	2023年11月	川村湊・島田龍編『左川ちか論集成』藤田印刷エクセレントブックス		PP. 334~363	無
100	島田龍	左川ちかの翻訳/左川ちかを翻訳すること 複言語としての詩の可能性	単著	2023年11月	『現代詩手帖』66巻11号		PP. 58~63	有
101	島田龍	北の地から言葉を繋ぐー『左川ちか論集成』刊行に寄せて	単著	2024年3月9日	『図書新聞』3630		P. 4	無
102	穎原善徳	日本国憲法の国会承認条約の範囲をめぐる政府見解の源流に関する一考察	単著	2024年1月	立命館大学人文科学研究紀要137		PP. 245~269	有
103	西田彰一	加藤完治と寛克彦——「農民」の生き方の規範論と「神ながらの道」	単著	2023年11月	『法と文化の制度史』4		PP. 99~136	有
104	西田彰一	一九二〇年代における国体論者間の知的交流について	単著	2024年3月	田中聡ほか編『〈学知史〉から近現代を問い直す』有志		PP. 44~62	無

					舎		
105	西田彰一	寛克彦における「鎮魂」と戦争	単著	2024年2月	牛村圭編『戦争と鎮魂』晃洋書房	PP. 110～128	無
106	西田彰一	寛克彦のキリスト教論——「日本基督教」と「古神道」	単著	2023年12月	苅部直・瀧井一博・梅田百合香編『宗教・抗争・政治:主権国家の始原と現在』千倉書房	PP. 27～50	無
107	西田彰一	<エッセイ>唐津にて山内俊美氏の足跡をたずねて:「山内俊美宛茅原華山書簡集」の追跡調査記	単著	2023年12月	『日文研』68	PP. 39～44	無
108	西田彰一	由良哲次と「神ながらの道」——今後の研究に向けて	単著	2024年3月	奈良県立大学ユーラシア研究センター編『学術叢書シリーズ 3 vol.3 奈良に蒔かれた言葉 III 近世・近代の思想』	PP. 93～102	無
109	長島修	日中戦争下華北製鉄業の構想と実態	単著	2023年9月	社会システム研究47	PP. 23～48	有
110	長島修	北支那製鉄株式会社の成立と崩壊	単著	2024年1月	立命館大学人文科学研究所紀要137	PP. 5～38	有
111	松野周治	書評:松本俊郎編『満洲国』以後:中国工業化の源流を考える』へのコメント	単著	2023年12月	『朝鮮族研究学会誌』13	PP. 53～58	有
112	松野周治	書評:穆堯芊・新井洋史編著『大国のなかの地域経済 アメリカ・中国・日本・EU・ロシア』	単著	2023年5月	『北東アジア地域研究』29	PP. 75～80	有
113	真杉侑里	愛知県旭遊廓移転にみる都市と売春営業の立地問題:内務省「貸座敷免許地標準内規」と遊廓移転	単著	2024年1月	立命館大学人文科学研究所紀要137	PP. 135～174	有
114	真杉侑里	解題:「西園寺公望関係文書」の形成と史料整理の経過	単著	2024年3月	『立命館 史資料センター紀要』7	PP. 75～104	無
115	三枝暁子・ウェルズ恵子	(国際会議プロシーディング) Fox Possession in Medieval Japan: The Reality of the Belief and Treatment of the Illnesses as a Shadow of Political Unrest	共著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要138	PP. 153～167	有
116	花崎育代	大岡昇平「釣狐」考——狂言<引用>と生成過程と——	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要138	PP. 109～125	有
117	松原大介	内田百閒「柳檢校の小閑」と『方丈記』——消えない〈淋しさ〉と隔たりの「感動」——	単著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要138	PP. 127～152	有
118	越智萌	露ウ戦争と Jus post bellum——変革的正義	単著	2023年7月	有斐閣 Online ロージャーナル	オンライン	有

		のための制度設計にむけて		月				
119	イシ、アンジェロ	ブラジル日系人受け入れ30年の教訓	単著	2023年	『ブラジル日系社会』東京図書出版発行	梅田邦夫編著	PP. 138~156	
120	イシ、アンジェロ	「終活」や「総括」に挑む日本在住の日系人たち	単著	2024年1月	『季刊民族学』187号、国立民族学博物館		PP. 38~45	
121	イシ、アンジェロ	在日ブラジル人/在外ブラジル人の私が大統領選時に同胞に訴えたこと	単著	2024年3月	『群馬・ブラジル大統領選挙上映会』、東京外国語大学海外事情研究所、	舩方周一郎編	PP. 5~12	
122	李真熙	メキシコ国家総合公文書館で沖縄系移民の足跡をたどる	単著	掲載決定	『多焦点拡張 = Multifokaler Expansionismus』5号		PP. 8~16	有
123	市井吉興	ライフスタイルスポーツとスポーツの「地殻変動」	単著	2023年11月	『現代スポーツ評論』第49号		PP. 40~51	無
124	平石貴士	パルクールの概念化と競技化	単著	2023年11月	『現代スポーツ評論』第49号		PP. 52~62	無
125	住田翔子	地図を描く？	単著	2023年11月	『現代スポーツ評論』第49号		PP. 63~75	無
126	塩見俊一	日本におけるスケートボードの揺籃期について	単著	2023年11月	『現代スポーツ評論』第49号		PP. 87~97	無
127	三谷舜	ベースボール型競技のアーバンスポーツ化	単著	2023年11月	『現代スポーツ評論』第49号		PP. 8~16	無
128	Ward Rowena	Perceptions of a threat to Australia: The Japanese in New Caledonia before 1941	単著	2023年	Australian Journal of French Studies 60: 2		PP. 274~289	有
129	Christine. de Matos	Unpacking Coercion in Gendered War Labor	共著	2023年	Labor History, 64, no. 3	J. Heinemann, C. de Matos, F. Sundevall & A. Ahlback	PP. 225~237	有
130	Christine. de Matos	Visualising the Modern Housewife: US Occupier Women and the Home in the Allied Occupation of Germany, 1945-1949	単著	2024年1月	Histories 2024, 4(1)		PP. 1~23 https://doi.org/10.3390/histories4010001	有
131	Christine. de Matos	The Home as a Space of Re-Education: Imperialism, Military Occupation, and Housekeeping Manuals	単著	2024年1月	The International History Review		PP. 1~21 https://doi-org.virtual.anu.edu.au/10.1080/07075332.2024.2303978	有
132	Kobayashi, Yasuko Hassall	World War II in the Asia-Pacific: Border Crossing Mobilities	単著	2023年	Asian Currents		https://asaa.asn.au/world-war-ii-in-the-asia-pacific-border-crossing-mobilities/	無

133	Rieko Kitamura	The origin of legal pluralism: towards a new theory of human rights law	単著	2023年	Al-Farabi Kazakh National University, Journal of Actual Problems of Jurisprudence, 107 (3)		PP. 4~8	有
134	北村理依子	日本における移民一人権法から見る欧州諸国の社会における文化摩擦からの示唆—	単著	2024年2月	立命館大学、立命館国際研究、36号3巻		PP. 85~302	無
135	北和樹	EUのAI法案から導かれる科学技術ガバナンスの諸原則の研究—新技術に対する国際的な科学技術ガバナンスに向けて—	単著	2023年	博士学位論文、立命館大学、			無
136	美馬達哉	「COVID-19と境界」	共著	2023年	『年報社会学論集』36号		PP. 3~11	無
137	Matsui, Nobuyuki	“ ‘Overcoming modernity’ , Capital, and Life: Diverging Nothingness in the 1970s and 1980s,”	単著	2023年	The Journal of East Asian Philosophy, Vol. 3, online			無
138	松下洸	ラテンアメリカ左派は再生できるか—大國間の現実主義を乗り越えて	共著	2023年	『アジア・アフリカ研究』第63巻第2号			無
139	松下洸	ウクライナ戦争を脱構築する—地政学を超えるグローバルサウスの視点から—	共著	2023年	『立命館国際研究』36巻第1号			無
140	松下洸	グローバルサウス再考 I—今日的な位置：課題と挑戦—	共著	2023年	『立命館国際研究』36巻2号			無
141	松下洸	グローバルサウスに不可欠なアプローチと視点—国家主義的アプローチを超えて—	共著	2023年	『経済科学通信』158号			無
142	井澤友美	インドネシアにおけるナショナリズムと社会分断の再考—イスラムとパプアの事例から	共著	2023年11月	立命館大学人文科学研究紀要137		PP. 341~366	有
143	田丸幹	スペース・デブリ問題解決のための政策指針についての考察	共著	2024年3月	立命館大学人文科学研究紀要139		PP. 237~261	有
144	松下洸	グローバルサウス再考 II—BRICSの現実は何を意味するのか—	共著	2024年	『立命館国際研究』36巻3号			無
145	松下洸	グローバルサウス再考 III—新たなシステムに向かうグローバルサウスの民衆—	共著	2024年	『立命館国際研究』36巻3号			無
146	松下洸	いま、グローバルサウス議論を発展させるために—アプローチとパースペクティブから—	共著	2024年	『アジア・アフリカ研究』第64巻第1号			無
147	Muhammad Tri Andika	Prabowo Subianto and The Politics of Jokowi' s Effect Towards Presidential Election 2024	共著	2024年3月	Institute of Humanities, Human and Social Sciences, Ritsumeikan University, 137	Suseela Devi Chandran	PP. 367~382	有

148	山口達也	アルテミス合意の規範的評価	共著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀要 138	PP. 251~292	有
-----	------	---------------	----	---------	--------------------	-------------	---

3. 研究発表等							
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名		
1	遠藤英樹	グローバルな複雑性を加速させよ！——「コミュニケーションの連鎖」の軸心 (axis) としての観光	2023年7月	観光学術学会 第12回大会、立教大学			
2	遠藤英樹	デジタル化されたモビリティーズ——モビリティーズの変化 (Affecting Mobilities) / 情動の駆動 (Mobilizing Affect)	2024年3月	立命館大学「国際共同研究促進プログラム」研究プロジェクト「ツーリズム・モビリティとデジタル革命に関する〈新たな社会理論〉の構築、立命館大学			
3	神田孝治	アッセンブリッジのレンズを通して見るジェンダーとツーリズム——伊勢志摩の海女を事例とした考察	2024年2月	観光学術学会 第11回研究集会、京都橘大学			
4	神田孝治	観光学3.0とアッセンブリッジというレンズ	2023年7月	観光学術学会 第12回大会、立教大学			
5	羽谷沙織	ポスト・コンフリクト社会の教育変容——カンボジア体制移行後30年の解剖学	2023年6月	第59回日本比較教育学会、上智大学	共同発表 (ラウンドテーブル)、千田沙也加 (中京大学)、正楽藍 (神戸大学)、江田英里香 (神戸学院大学)、前田美子 (大阪女学院大学)、萩原崇世 (上智大学)、北村友人 (東京大学)		
6	羽谷沙織	「学校」以外の空間における舞踊継承の可能性、正統性、革新性——カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの担い手としてのディアスポラ民間舞踊団	2023年6月	第59回日本比較教育学会、上智大学	単独発表		
7	Hagai Saori	Cross-border learning opportunities: Pragmatic decision-making thriving in Thai education from Cambodia.	2023年11月	CESA 13th Biennial Conference, Hiroshima University	単独発表 (パネルディスカッション)		
8	羽谷沙織	ディアスポラが担うカンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承と変容	2023年12月	第105回東南アジア学会	単独発表 (パネルディスカッション) 「東南アジアの現代アート - パフォーマンスの実践を対象とする予備的考察」福岡まどか (大阪大学)、竹下愛 (東京外国語大学)、山本博之 (京都大学)		
9	石田雅芳	「イタリア軒」創始者ピエトロ・ミオラの人物像を再構築する試み	2024年2月	和食文化学会 第6回研究大会			
10	石田雅芳	Terroir di Well-Being della penisola di Oga	2024年2月	Assemblea extra-ordinaria per l'alga marina commestibile organized by Mare per Sempre, Taranto, Italy			
11	石田雅芳	オンラインを活用した地域価値共創場のデザイン——GAstroEdu Lemon Adventure3 瀬戸田レモンの取り組みを事例に	2023年10月	日本創造学会第45回研究大会、東京都・世田谷区：産業能率大学・オンラインハイブリッド	野中朋美、石田雅芳、白坂成功、本田智巳、河原崎香織、Maddalena Borsato、萩原雅美		
12	石崎祥之	Significance of island entry tax collection under overtourism: Focusing on the cases of Miyajima, Hiroshima	2024年3月	アイランドツーリズム学会、琉球大学			
13	須藤廣	日本における社会学的観光研究の展開	2023年6月	第12回 観光学術学会大会フォーラム・シンポジウム、立教大学			
14	須藤廣	マス・ツーリズムとしての	2023年6月	第12回 観光学術学会大会、立教大学	新井克也、鍋倉咲希		

		バックパッキング			
15	轟博志	自然に向けた人文的まなざし:日本の富士山の事例	2023年11月	済州学会 第57回国際学術大会	
16	轟博志	The Character of Private Railways in Korea: 1899-1945	2023年10月	Global Mobility Humanities Conference & 21 st Annual Conference of the International Association for the History of Transport, Traffic and Mobility	
17	轟博志	山経表の系譜関係に関する再検討	2023年6月	大韓地理学会年次学術大会	
18	轟博志	(書評) 福本拓『大阪のエスニック・バイタリティー 近現代・在日朝鮮人の社会地理』	2023年4月	朝鮮史研究会関西西部会4月例会	
19	種田博之	医学教育においてなぜ社会学を学ぶ必要があるのか	2023年5月	第49回日本保健医療社会学会大会	錦織宏ほか
20	種田博之	報告へのコメント	2023年5月	第49回日本保健医療社会学会大会	錦織宏ほか
21	種田博之	葉害肝炎において語られなくなった事柄——「カルテなき患者」問題=被害者認定をめぐるポリティクス	2023年10月	第96回日本社会学会大会	
22	橋本和也	観光研究の感情/情動論的転回——「感情ネクサス」の生成について	2023年7月	観光学術学会 第12回大会、立教大学	
23	安田峰俊	コロナ、東洋史、ジャーナリズム	2023年9月	七隈史学会第25回大会、福岡大学	野上建紀、佐々木颯人、角英里華、ほか26名
24	安田峰俊	アカデミズムとジャーナリズムのあいだ	2023年3月	京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター イベント名「アカデミズムとジャーナリズムのあいだ—安田峰俊氏と語る」	岡本隆司、荻恵里子、小堀慎悟、比護遙、望月直人、村上衛
25	安田峰俊	“越境ジャーナリト”が見た中国、日本、アジア	2023年3月	北海道大学東アジアメディア研究センター、北海道大学	秦軒、阿古智子
26	松本健太郎	パネルにおけるコメントーター「創造的な虚構と表象の人類学」(代表・沼崎一郎)	2023年6月	日本人類学会第57回研究大会	
27	麻生将	牧師の人事異動からみた近代日本のプロテスタント教会の立地とその特徴——日本自由メソヂスト教団を例に	2024年11月	2023年 人文地理学会大会	
28	韓準祐	観光まちづくりの現状とレジリエンス——コロナ禍における観光まちづくりの全国調査の中間報告(1)	2023年7月	観光学術学会、第12回大会、立教大学	間中光、四本幸夫
29	間中光	観光まちづくりの現状とレジリエンス——コロナ禍における観光まちづくりの全国調査の中間報告(1)	2023年7月	観光学術学会、第12回大会、立教大学	韓準祐、四本幸夫
30	Yasuda Shin	Rethinking Halal Tourism in Pious Neoliberalism: Islamic Economy and Moral Accountability in Muslim Societies	2023年11月	International Workshop: Accountability in Islamic Economy: Transforming Religiosity and Religious Experiences in Muslim Societies. EHESS, Paris. 10th November 2023.	
31	角田燎	戦後日本における旧軍人の生き方と 戦争体験の評価	2023年6月	第55回立命館アジア・日本研究機構「AJI 最前線セミナー」	
32	角田燎	Self-Representations and Social Activities of Retired Self-Defense	2023年12月	21th Asia pacific Conference	

		Force Personnel: A Sociological Study on Their Participation in a Japanese War Veterans' Association			
33	下村晃平	英語圏におけるネオリベラリズム研究の到達点: 主要4アプローチの検討から	2023年5月	関西社会学会第74回大会	
34	江口友朗	「アジア「環境-福祉」国家アプローチ 確立のための一試論	2024年3月	進化経済学会第28回全国大会	安藤順彦、田中啓太
35	鎮目真人	年金制度における不人気改革 —「2004年年金改革」以降を中心として—	2023年6月	日本公共政策学会 2023年度研究大会	
36	鎮目真人	試行錯誤の国際的学術研究・発表	2023年6月	社会政策学会 146回大会	
37	鎮目真人	Focal Points in Japan's 2025 Public Pension Reform: Focusing on unpopular reforms since the 2004 pension reform	2023年12月	Korea Pension Association, National Pension Research Institute, and Korea Institute for Health and Social Affairs, 2023 Joint Project Academic Conference	
38	松田亮三	日本における「健康格差」対策—既存の政策パラダイムによる限定	2023年7月	第64回日本社会医学学会総会	
39	加藤雅俊	司法的解決を越えて—アンケート調査から考える諫早湾干拓紛争の社会的処理の可能性と課題—	2023年5月	日本法社会学会 2023年度学術大会	開田奈穂美
40	加藤雅俊	The Changing Relationship Between Politicians and Bureaucrats in Japan: a Focus on Personal History of Government Official,	2023年6月	Canadian Political Science Association 2023 Conference	徳久恭子
41	加藤雅俊	Merits and Limits of the Judicial System As a Form of Conflict Resolution System in Japan: The Case of Social Conflict in Isahaya City	2023年6月	International Sociology Association Conference 2023	
42	加藤雅俊	Transformations and Dynamics of an Employment-based Welfare State: Japan and Australia in Comparative Perspective	2023年11月	Australian Political Science Association Conference 2023	
43	加藤雅俊	Towards building the mechanism of conflict resolution: the Limits of the Judicial System on social conflict in Case of the State-owned Isahaya Bay Reclamation Project	2023年11月	Australian Political Science Association Conference 2023	
44	亀井大輔	テキストの自己伝承—デリダにおける遺産相続の問題	2024年3月	中山大學哲学系講演会(第3回東アジア間文化現象学会議)・中山大學(中国・広州)	
45	亀井大輔	西田幾多郎『善の研究』第2編第1～5章の読解と註釈	2023年10月	第1回「日本哲学の脱構築」ワークショップ「西田幾多郎『善の研究』を読む」第2編を中心に・専修大学(神奈川県)	
46	亀井大輔	デリダ『生死』第1～3回について	2023年4月	ワークショップ「ジャック・デリダ『生死』を読む」・金沢大学(石川県)	

47	谷 徹	事象そのものへ：あいだの現象学	2024年2月	「木村敏シンポジウム」・龍谷大学	
48	鈴木崇志	フッサヘル『改造』論文における「人間」概念：日本哲学との比較研究	2024年3月	中山大學哲学系講演会（第3回東アジア間文化現象学会議）・中山大學（中国・広州）	
49	鈴木崇志	革新・共同体・真の人間：フッサヘル『改造』論文100周年記念ワークショップ	2024年3月	第22回フッサヘル研究会・東海大学（神奈川県）	植村玄輝、吉川孝、八重樫徹
50	鈴木崇志	Externalized and Historicized Community: A theory of Culture in the Kaizo articles	2023年9月	Husserl's Ethics in the Global Context: The Kaizo Articles Centenary Conference II, Katholieke Universiteit Leuven (Belgium, Leuven)	
51	加國尚志	スティールとアンガジュマンへプルヘストを読むメルロ＝ポンティ	2023年9月	日本メルロ＝ポンティ・サークル第20回大会シンポジウム「70年後の『哲学を讀えて』——コレヘジュ・ド・フランスの未訳草稿にみる後期表現論の射程」・日本大学（東京都）	
52	伊勢俊彦	エマヌエーレ・コッチャの『メタモルフォーゼの哲学』における科学と神学	2023年4月	応用哲学会第15回年次研究大会・金沢大学（石川県）	
53	伊勢俊彦	E. コッチャの『メタモルフォーゼ』と種の境界の超え方	2023年6月	京都生命倫理研究会・京都女子大学（京都府）	
54	伊勢俊彦	農業の転換と動物倫理	2023年9月	第74回日本倫理学会ワークショップ・オンライン開催	
55	小関素明	書評：小路泰直著『講座：わたしたちの総合歴史6 日本史の政治哲学—非西洋的民主主義の源流—』かもがわ出版、2023年	2023年6月	近代日本思想史研究会、立命館大学（京都衣笠キャンパス）	斉藤恵美
56	小関素明	今回の能登半島地震の何を、どう問題にすべきなのか	2024年3月	2024年能登半島地震と戦後日本の地域開発研究会、立命館大学（京都衣笠キャンパス）	
57	宮下祥子	知識人たちの内灘闘争と内灘試射場返還	2023年12月	同時代史学会2023年度大会、東京経済大学 国分寺キャンパス	
57	十河和貴	"Prewar Japan's Party Politics from the Perspective of Power Consolidation: Dynamics of the Interplay between "Human Factor" and "Institution" "	2023年4月	The 53rd AJI Frontier Seminar, at Zoom	
59	十河和貴	帝国主義と国際協調の相克を考える—戦前日本の政党内閣にとっての台湾—	2023年6月	第3回「閉じていく日本帝国と台湾」研究会、於大阪大学中之島センター（大阪府）	
60	十河和貴	"Colonial and Overseas Development Policies of Imperial Japan under Internationalism: Reading the Policies of the Kenseikai Cabinet from the Perspective of Cultural and Economic Integration ", The Dynamics of East Asian Politics and Diplomacy in the 1920s	2023年8月	The Intersection of International Cooperation and Imperial Expansion (Organized by Kazutaka SOGO, hosted by Asia-Japan Research Institute), at Osaka Ibaraki Campus, Ritsumeikan University and online,	
61	十河和貴	"The Logic of Reconstructing a Political Party and Subsequent Internal Dilemmas in Modern Japan: Focusing on the	2023年12月	Asia Pacific Conference 2023, at Ritsumeikan Asia Pacific University (APU), Beppu, Japan	

		Political Concepts of the Rikken Seiyukai Party During the National Unity Government (1932-1936) ”			
62	十河和貴	南進政策の第一線から愛知の代議士へー小笠原三九郎における外地経験ー	2024年12月	名古屋アジア散歩 第3回シンポジウム、於名古屋市立大学 (愛知県)	
63	中井悠貴	白鳥敏夫と「八紘一宇」理念		日本思想史研究会 (京都)	
64	中井悠貴	今泉定助の「八紘一宇」理念をめぐる——藤澤親雄・葦津珍彦への影響とその展開を中心に		歴史理論研究会	
65	中村凌太郎	戦前期外務省による中国専門外交官の養成計画ー中国在勤外交官をめぐる問題とその是正ー	2023年7月	第28回東アジア近代史学会大会、於東京大学駒場キャンパス	
66	中村凌太郎	外交官及領事官試験制定後の外務省と外交官養成プログラム	2023年9月	日本政治学会 2023年度総会・研究大会、於明治大学	
67	丸山彩	明治期から大正期にかけての日比谷公園音楽	2023年12月	東洋音楽学会第74回大会 (於京都教育大学)	橋川亜美
68	梶居佳広	日韓関係、特に歴史問題をめぐる日本の新聞論調	2024年1月	青丘文庫研究会、神戸市立中央図書館	
69	寺澤優	第18回 女性史学賞受賞記念講演ー戦前日本の私娼・性風俗産業と大衆社会ー	2024年1月	第18回女性史学賞授賞式、奈良女子大学	
70	寺澤優	Discussion: Covid-19, AI, Neoliberalism and Humanities (ディスカッション: コロナ・AI・新自由主義と人文学)	2023年6月	KU ルーヴェン大学広島大学国際研究交流会、広島大学霞キャンパス	Jan. Schmidt、Kris Van Heuckelom、中村江里
71	吉田武弘	「議会政治」の形成と両院関係問題ー初期議会期を中心にー	2023年10月	日本研究会 2023年度大会、於龍谷大学大宮キャンパス (京都市)	
72	奈良勝司	コロナ・AI・新自由主義と人文学	2023年6月	ルーヴェン大学広島大学 国際研究交流会、広島大学霞キャンパス	久保田明子
73	奈良勝司	近代日本のアイデンティティ構造と変遷ー総力戦・実学・コミュニティー	2023年6月	日韓次世代学術フォーラム 20周年記念国際学術大会 新進研究者パネルディスカッション「アイデンティティ:過去・現在・未来」、東西大学校周礼キャンパス (韓国、釜山)	
74	佐藤太久磨	帝国日本と中国、ロシアー「歴史」と現代	2023年8月	2023 Northeast Asian History Foundation Forum、韓国・ソウル	
75	河原梓水	悪しき欲望と人権	2023年7月	別の人権を想像する アニュアル 2023、PARA 神保町 (東京)	
76	河原梓水	(対談) 昭和 SM 誌における挿絵の世界	2023年9月	新宿眼科画廊 (東京)	カスカベキタロウ
77	河原梓水	見てはいけない文化:SM 表現への規制とアーカイブ化の困難	2023年10月	神戸発掘映画祭連携企画「(ワークショップ) 見てはいけない映画のアーカイブを考える」、神戸映画資料館	
78	河原梓水	(鼎談)「見てはいけない映画」を見る	2023年11月	『ブルーフィルムの哲学』発売記念イベント、神戸映画資料館 (兵庫県)	木下千花、吉川孝
79	島田龍	田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』と幾人ものジョゼ	2023年5月	ロマン的なるもの研究会、東山いきいき市民活動センター	
80	島田龍	対談: 左川ちかの現代性	2023年11月	特別展「左川ちか 黒衣の明星」イベント、北海道立文学館	川村湊
81	松野周治	日中 50 年の経済協力: 意義と今後の展望	2023年6月	The 8th Northeast Asia Think Tank Forum (NEATTF, 第 8 回東北亜智库論壇), Changchun, China(長春)	
82	松野周治	東北アジアの経済社会発展と『二重の双循環』	2023年6月	The 8th Northeast Asia Think Tank Forum (NEATTF, 第 8 回東北亜智库論壇), Changchun, China(長春)	

83	松野周治	『二重の双循環』と東北アジア (試論)	2023年10月	第29回北東アジア学会学術研究大会、北九州市立大学、福岡県
84	松野周治	世界経済の分断傾向と日本の針路：RCEP と IPEF、東アジア地域協力の意義	2024年1月	長崎県立大学東アジア研究セミナー、長崎県立大学佐世保キャンパス
85	三枝暁子・ウェルズ恵子	Fox Possession in Medieval Japan: The Reality of the Belief and Treatment of the Illnesses as a Shadow on Political Unrest	2023年10月	International Symposium: Thinking Animals / Slovenian Ethnology Research Centre of the Slovenian Academy of Sciences and Arts and Biotechnical Faculty of the University of Ljubljana
86	松原大介	内田百閒「旅順入城式」論——映画言説を視座として——	2023年12月	阪神近代文学会2023年度冬季大会、京都外国語大学
87	松原大介	報告：紀要特集号掲載論文「内田百閒「柳検校の小閑」と『方丈記』」	2024年2月	中世関連文化研究会、東京大学本郷キャンパス・法文1号館115教室
88	鷺尾渉	病いの寓意としてのヴァンパイア：キリスト教とイスラム教における対疫病観の相違から発生したヴァンパイア像	2023年9月	中世関連文化研究会、立命館大学衣笠キャンパス・人文科学研究所研究会室
89	鷺尾渉	旧大陸を羨望する新大陸のヴァンパイア：Interview with the Vampire を中世の観点から読む	2024年2月	中世関連文化研究会、東京大学本郷キャンパス・法文1号館115教室
90	佐々木梓	小林秀雄「おふえりや遺文」論一礎としての『ハムレット』	2024年2月	中世関連文化研究会、東京大学本郷キャンパス・法文1号館115教室
90	越智萌、川口博子	国際刑事裁判所(ICC)による被害者とのコミュニケーション—ウガンダの事例	2024年2月	Reparation for Peace: Transformative Approach to Compensate
91	Megumi Ochi	The Concept of Transformative Justice	2024年2月	Reparation for Peace: Transformative Approach to Compensate
92	Megumi Ochi	The Beneficiaries of Reparation for the Crime of Aggression before the International Criminal Court: A Transformative Approach	2024年3月	The 2024 Korea-Japan Young International Lawyers Workshop
93	園田節子	ペルーの華僑華人社会：越境する人と政治の歴史学的分析	2023年12月	日本ペルー修好150年記念シンポジウム「太平洋をつなぐ過去と未来」、上智大学中央図書館L-921ホール
94	Ishi, Angelo	Políticas migratórias e percepções dos migrantes: o caso do programa de retorno voluntário para os brasileiros no Japão.	2023年7月	2º Congresso Internacional das Migrações e Diáspora Brasileira (CIMDAB: 第2回ブラジル系移民及びディアスポラに関する国際大会): Universidade do Minho (ミーニョ大学、ブラガ市、ポルトガル)
95	芹澤隆道	1930年代フィリピン農民運動とコミンテルンの革命運動：モスクワのコミンテルン資料館を手掛かりに	2023年7月	第3回「越境政治の国際比較」研究会、キャンパスプラザ京都第5演習室、京都
96	芹澤隆道	1930年代フィリピン共産主義運動とサーベイランス	2024年3月	科研研究会報告(代表：鬼丸武士「戦間期、越境する活動家に対するサーベイランスの実態とその限界」学習院大学)
97	岡本直美	沖縄の反戦平和と8月6日	2023年8月	日本基督教団京北教会「平和を考える集い 沖縄の歴史から平和を考える」、京都
98	李定恩	非国家的主体の越境政治：フィリピンの英語学校を事例に	2024年2月	第4回「越境政治の国際比較」研究会、キャンパスプラザ京都第5演習室、京都

99	李真熙	沖縄の日本復帰と「世界のウチナーンチュ」	2023年11月	東アジア日本研究者協議会・第7回国際学術大会、東京外国語大学（国際日本研究センター）	
100	李真熙	越境的自画像の形成についての考察：沖縄の日本復帰と「世界のウチナーンチュ」について	2024年2月	第4回「越境政治の国際比較」研究会、キャンパスプラザ京都第5演習室、京都	
101	市井吉興	パーク or / and ストーリー	2023年9月	日本スポーツ・体育・健康学会第73回大会 同志社大学	
102	平石貴士	質問紙調査に基づく現代日本のスポーツ空間の構築	2024年3月	日本スポーツ社会学会第33回大会 日本大学	
103	市井吉興	スケートボードカルチャーの表象をめぐる一考察	2024年3月	日本スポーツ社会学会第33回大会 日本大学	村下慣一
104	Ireland, Benjamin	“Empires and Entanglements: French and Japanese Internments and Carceralities.”	2023年9月	The 16th Biennial JSAA Conference at the University of Sydney in Sydney	単独発表
105	Ward, Rowena	Nouvelle and Purana Qila Internment Camps	2023年9月	The 16th Biennial JSAA Conference at the University of Sydney in Sydney	単独発表
106	Ward, Rowena	Decentering the American Occupation of Japan: Australian Troops and War Brides	2023年11月	Australia-Japan Foundation grant for student research into Australia's participation in the Allied Occupation of Japan	単独発表
107	Ward, Rowena	Nouvelle and Purana Qila Internment Camps and Collective Memory	2023年12月	Remembering and Forgetting workshop done in Februar	単独発表
108	Ward, Rowena	Nouvelle Internment Camp in New Caledonia: A reused penal prison site	2024年3月	ReSI workshop (https://www.resiresearch.org/mission)	単独発表
109	Takahashi, Shinnosuke	A Translocal Life: Mobility, Activism, and Faith	2023年9月	The 16th Biennial JSAA Conference at the University of Sydney in Sydney	単独発表
110	Takahashi, Shinnosuke	Reconsidering History and Politics: Arasaki Moriteru and Writing Okinawan Contemporary History between Post-Imperial Japan and Post-colonial Asia	2023年12月	The 25th Biennial NZASIA Conference at the University of Canterbury in Christchurch	単独発表
111	Takahashi, Shinnosuke	Discussant Remarks	2023年12月	GLA Research Colloquium: Transnational Solidarity Networks: A View from Gangjeong Village, Jeju Island at Ritsumeikan University	単独発表
112	Kobayashi, Yasuko Hassall	移動と定住、平時と危機時の連続性を生きる：第二次世界大戦のラバウルで生きた日本軍兵士の事例から	2023年5月	立命館土曜講座、第3382回	単独発表
113	Kobayashi, Yasuko Hassall	Life in the Meantime: A Case of Japanese Soldiers Crop Cultivation in Rabaul	2023年9月	The 16th Biennial JSAA Conference at the University of Sydney in Sydney	単独発表
114	Kobayashi, Yasuko Hassall	Life in the Meantime: A Case of Japanese Soldiers Crop Cultivation in Rabaul	2023年9月	Victoria University (New Zealand)	単独発表
115	Kobayashi, Yasuko Hassall	Chair: Aspects of Transpacific Intellectual Entanglements: Between Western Modernity and Decolonization	2024年2月	ANU & U-Tokyo International Workshop under ANU/UTokyo Strategic Partnership	単独発表

116	Rieko Kitamura	The limits of the right to participate in cultural life under international human rights law	2024年2月	Japanese-German meeting on questions of constitutional law, University of Cologne	
-----	----------------	--	---------	---	--

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	立命館大学人文科学研究所国際シンポジウム モビリティーズ研究の新たな奔流を創出する Creating a new torrent of mobilities studies	衣笠キャンパス	2023年10月	50名	立命館大学国際共同研究促進プログラム「ツーリズム・モビリティとデジタル革命に関する(新たな社会理論)の構築」
2	立命館大学「国際共同研究促進プログラム」研究プロジェクト「ツーリズム・モビリティとデジタル革命に関する〈新たな社会理論〉の構築	衣笠キャンパス	2024年3月	50名	立命館大学国際共同研究促進プログラム「ツーリズム・モビリティとデジタル革命に関する(新たな社会理論)の構築」
3	ツーリズム・モビリティーズ研究会	Zoom	2023年9月	30名	
4	第3回観光空間研究部会「遺跡から「聖地」へーグローバル化を生きる仏教聖地」	Zoom	2023年7月	30名	人文地理学会
5	民粹と良心 日本の世論における中国	局外人書店(神保町)	2024年3月	30名	局外人書店
6	International Workshop: Accountability in Islamic Economy: Transforming Religiosity and Religious Experiences in Muslim Societies.	Campus Condorcet, Paris, France	2023年11月	10名	EHESS-FFJ
7	International Workshop: Muslim Piety as Economy: Markets and Mobilities	上智大学四谷キャンパス	2024年1月	10名	上智大学イスラーム地域研究所 日本学術振興会・科研費22H03846
8	新川敏光『政治学』合評会	キャンパスプラザ京都+オンライン	2023年4月	30名	
9	吉田徹『居場所なき革命』合評会	キャンパスプラザ京都+オンライン	2023年4月	20名	
10	ダニエル・ベラン、リアン・マホン『社会政策の考え方』研究会	オンライン	2023年7月	50名	
11	田中拓道『福祉国家の基礎理論』合評会	オンライン	2024年2月	110名	
12	ベ・ジュンソプ『韓国型福祉レジームの形成過程分析』研究会	オンライン	2024年3月	30名	
13	林凌『〈消費者の誕生〉』書評会	衣笠キャンパス	2024年3月	15名	
14	清水亮『「軍都」を生きる』合評会	朱雀キャンパス	2024年3月	20名	
15	ワークショップ：京滋地区から考える「ヒロシマ・ナガサキ」ー模擬原爆パンプキンの被害と滋賀の戦争ー	びわこ草津キャンパス	2024年3月	30名	
16	国際ワークショップ “Global threats and the European Convention on Human Rights: from climate change to Russia’s war on Ukraine” (第1回グローバルリスク研究会)	衣笠キャンパス	2023年4月	20名	
17	第2回グローバルリスク研究会	衣笠キャンパス、ハイブリッド	2023年6月	10名	
18	第3回グローバルリスク研究会	衣笠キャンパス、ハイブリッド	2023年7月	10名	
19	国際シンポジウム “Public Diplomacy of East Asian Countries in Europe”	衣笠キャンパス、ハイブリッド	2024年1月	100名	国際共同研究促進プログラム
20	国際ワークショップ “The Role of Public Diplomacy in the Development of International Relations between European and East	衣笠キャンパス、ハイブリ	2024年1月	20名	国際共同研究促進プログラム

	Asian Countries”	ッド			
21	第4回グローバルリスク研究会	ハイブリッド	2024年1月	10名	
22	国際シンポジウム “Living and Working in Outer Space”	立命館東京キャンパス、ハイブリッド	2024年3月	20名	研究推進プログラム（科研費獲得型）
23	国際ワークショップ “International Workshop for Younger Researchers: Science, Technology, and International Society II”	衣笠キャンパス	2024年3月	10名	立命館大学人文科学研究所、研究推進プログラム（科研費獲得型）
24	ダン・ザハヴィ&ソフィ〜・ロイドルト講演会	衣笠キャンパス	2023年5月	90名	
25	メルロ＝ポンティと子どもの心理学を考える	衣笠キャンパス	2023年7月	50名	
26	ワヘクシヨップ・脱構築の複数性	衣笠キャンパス	2023年9月	60名	
27	『フェミニスト現象学』出版記念ワヘクシヨップ・「らしさ」篇	オンライン	2023年12月	60名	
28	『フェミニスト現象学』出版記念ワヘクシヨップ・方法論篇	オンライン	2024年1月	60名	
29	『フェミニスト現象学』出版記念ワヘクシヨップ・クィア篇	オンライン	2024年2月	60名	
30	『フェミニスト現象学』出版記念ワヘクシヨップ・生活篇	オンライン	2024年3月	30名	
31	ニルス・ヴァイトマン講演会「人間存在の間文化的次元」	衣笠キャンパス	2024年3月	30名	
32	有村直輝著『生成の美と論理 ホワイトヘッドの形而上学』書評会	衣笠キャンパス	2024年3月	20名	
33	中世関連文化研究会	衣笠キャンパス	2023年9月	6名	
34	中世関連文化研究会	東京大学本郷キャンパス	2024年3月	6名	
35	XI AIDP Symposium for Young Penalists	衣笠キャンパス	2023年9月	100名	江草財団
36	Reparation for Peace: Transformative Approach to Compensate The 2nd Seminar of Transformative Justice Project	立命館平和ミュージアム	2024年2月	29名	
37	第3回「越境政治の国際比較」研究会	キャンパスプラザ京都第5演習室	2023年7月	8名	
38	第4回「越境政治の国際比較」研究会	キャンパスプラザ京都第5演習室	2024年2月	7名	
39	第5回「越境政治の国際比較」研究会（ゲスト講師回）	Zoom オンライン	2024年3月	9名	
40	ANU & U-Tokyo International Workshop under ANU/UTokyo Strategic Partnership Aspects of Transpacific Intellectual Entanglements: Between Western Modernity and Decolonization	オーストラリア国立大学	2024年2月	50名	オーストラリア国立大学、東京大学
41	GLA Research Colloquium: Transnational Solidarity Networks: A View from Gangjeong Village, Jeju Island at Ritsumeikan University	立命館大学茨木校舎	2023年12月	20名	立命館大学グローバル教養学部
42	The Interlacing of Japan and the World: Trans-Regional Migration and Mobility	一橋大学	2023年7月	40名	一橋大学
43	Global threats and the European Convention on Human Rights: from climate change to Russia's war on Ukraine	衣笠キャンパス	2023年4月		
44	Public Diplomacy of East Asian Countries in Europe	衣笠キャンパス	2024年1月		
45	The Role of Public Diplomacy in the Development of International Relations between European and East Asian Countries	衣笠キャンパス	2024年1月		
46	Living and Working in Outer Space	東京キャンパス	2024年3月		
47	International Workshop for Younger Researchers: Science, Technology and International Society II,	衣笠キャンパス	2024年3月		

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	遠藤英樹	〈講演録〉観光とメディアのリミックス	二松學舎大学人文論叢（111）、PP. 1～13	2023年10月
2	遠藤英樹	アフター・コロナの観光——観光を「希望の原理」とするために	島根大学法文学部山陰研究センター講演会	2023年12月
3	遠藤英樹	歓待の贈与のネットワーク——地域を守るための観光	サスタビ——サステイナブルな旅の情報サイト	2023年4月
4	遠藤英樹	祭りイベントに関わる地域と観光のダイナミズム——岸和田だんじり祭り等いくつかの事例から	令和5（2023）年度前期いづみ市民大学「祭りイベントの地域観光学」	2023年5月
5	遠藤英樹	日本・世界の各地へ移動・転移する「祭り」——よさこい祭りを事例に	令和5（2023）年度前期いづみ市民大学「祭りイベントの地域観光学」	2023年7月
6	遠藤英樹	ウィリアム・メレル・ヴォーリズと彼が設計した建築ツアー	大阪・京都文化講座関西モダニズムとその周辺——明治末期から大正・昭和前期の生活文化と芸術と景観	2023年11月
7	山本理佳	祭りと空間——京都の新旧の祭りを事例に	令和5（2023）年度前期いづみ市民大学「祭りイベントの地域観光学」	2023年6月
8	山本理佳	祭りとイデオロギ——九州の祭りを事例に——	令和5（2023）年度前期いづみ市民大学「祭りイベントの地域観光学」	2023年6月
9	山本理佳	「軍転法」と「軍事遺産」観光	軍転法75周年の記念書籍キックオフ・シンポジウム（主催：市民と議員の基地問題懇談会）	2023年9月
10	山本理佳	観光とリスク——リスクになりうる／リスクを回避しうる観光——	立命館土曜講座（企画：歴史都市防災研究所）	2023年12月
11	石田雅芳	レモンのテロワール：地域と食との関係	瀬戸田レモンと尾道テロワール・まちづくり 広島県尾道市瀬戸田町・ベルカント・ホール	2024年2月
12	石田雅芳	秋田県男鹿半島 テロワールと健康	第1回内閣府クールジャパン・アカデミアフォーラム	2023年12月
13	石田雅芳	男鹿の健康と幸福のテロワール	第2回海藻サミット	2023年11月
14	石田雅芳	トークセッション「海藻の未来」	第2回海藻サミット	2023年11月
15	石田雅芳	チッタ・スローとリジェネレーションな地域づくり	東京京橋スイバFuture Food Institute & Slow City	2024年1月
16	石田雅芳	スローフード	滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場	2024年10月
17	高田剛司	産学連携セミナー 講演「食」で広がる地域産業の活性化」	草津商工会議所	2024年3月
18	安田峰俊	日曜討論「輸入停止」にどう対応？ 今後の日中関係は」	NHK	2023年9月

19	安田峰俊	第1回 日本のルポルタージュ 第2回 中国報道の現状	静岡県立大学「ジャーナリズム論」ゲスト講義	2023年12月
20	安田峰俊	中国と台湾 2024	国際政治チャンネル	2024年3月
21	間中光	書評：中井治郎著『バンクする京都——オーバーツーリズムと戦う観光都市』 オーバーツーリズムから考える「京都らしさ」	観光学術学会、観光学評論 11(2)	2023年3月
22	間中光	国際的な地域連携協力の可能性——バリ島マス村と島根県美郷町	美郷町とマス村と交流を考えるフォーラム（バリとみさとと。まつり）	2023年10月
23	谷崎友紀	長岡京市文化財保存活用地域計画キックオフ講演会「江戸時代の旅と名所と乙訓」	長岡天満宮（長岡京市）	2023年6月
24	谷崎友紀	せとうち観光専門職短期大学出張キャンパス「江戸時代の旅と名所と善通寺」	ZEN キューブ（善通寺市）	2023年8月
25	川村仁子	プレスセミナー「プロメテウスの松明：I、ナノテク、宇宙技術などの先端科学技術ガバナンスの課題」	オンライン	2023年6月19日
26	川村仁子	新聞記事「AI サミット」	京都新聞、四国新聞、宮崎日日新聞	2023年11月1日
27	川村仁子	新聞記事「土曜特集」	公明新聞	2024年2月3日
28	川村仁子	新聞記事「新生 AI」	朝日新聞	2024年2月16日
29	島田龍	構成協力：余市水産博物館企画展「左川ちか B L U E S」	余市水産博物館	2023年9月16日～12月10日
30	島田龍	企画監修委員・資料提供：北海道立文学館特別展「左川ちか 黒衣の明星」	北海道立文学館	2023年11月18日～2024年1月21日
31	島田龍	「左川ちか」展 激しい言葉、叙情と一線 現代に響く	『日本経済新聞』	2023年12月9日
32	島田龍	小さい時からよく夢を見た 余市出身の「幻の詩人」左川ちか 世紀を超え色あせぬ幻想〈言葉の現在地 2024〉	『北海道新聞』	2024年1月8日
33	島田龍	ラジオ談話『TOKYO MORNING RADIO』	J-WAVE	2024年2月20日
34	河原梓水	(取材協力)「進化する令和の「緊縛アート」	『週刊SPA!』扶桑社、pp. 52～55	2023年6月13日
35	三枝暁子	講演「室町時代の翹業者・西京神人の歴史」	広島杜氏組合夏期酒造講習会 東広島市安芸津生涯学習センター	2023年7月26日
36	井上充幸	連載コラム『銅人経』拓本を探る!?! ①「蓬左文庫蔵『銅人脰穴鍼灸図経』拓本の研究をはじめににあたって https://housa.city.nagoya.jp/archive/pdf/housa105.pdf?ccv20230606	『蓬左』第105号	2023年6月6日発行
37	丸山由美子	連載コラム『銅人経』拓本を探る!?! ②「『銅人経』拓本はいつ尾張徳川家に来たか?—御文庫蔵書目録から探る—」 https://housa.city.nagoya.jp/archive/pdf/housa106.pdf	『蓬左』第106号	2024年1月4日発行
38	井上充幸	『銅人脰穴鍼灸図経』拓本の表と裏を読み解く—17世紀前半における東アジアの医学交流—	令和5年度 第2回 名古屋市蓬左文庫講演会	2024年1月24日
39	越智萌	Transformative Justice -変革的正義- Project	オンライン（ホームページ）	2023年2月
40	岸川毅	中南米：「台湾断交」を選択した国、しなかった国」	『Foresight』（オンラインジャーナル）	2023年5月 https://www.fsight.jp/articles/-/49776
41	岸川毅	ラテンアメリカの現在—後退する米国の覇権と中国の影	『修親』第767号	2023年6月
42	岸川毅	中国の対ラテンアメリカ政策—グローバルサウス外交の理念と実践—	『東亜』第675号	2023年9月
43	岸川毅	中米2カ国訪問の台湾・蔡英文総統 「断交ドミノ」は今後も起きる?	『朝日新聞』（電子版）	2023年4月2日、
44	岸川毅	中国がキューバに情報収集施設を設置 バイデン政権警戒強める	『NHKニュース9』（電子版）	2023年6月13日、
45	岸川毅	中米、台湾から中国への乗り換えで輸出拡大できる? 効果に疑問符	『毎日新聞』（電子版）	2023年7月12日、

46	Ishi, Angelo	【基調講演】:Brasileiros no Japão e diáspora acadêmica: desafios e perspectivas.	Fórum Diáspora Acadêmica e Comunidade	Associação dos Pesquisadores Brasileiros no Japão、
47	イシ、アンジェロ	「デカセギ文学の現在」とその可能性	『アステーション』、99号、サントリー文化財団、91-102頁。	2023年11月
48	イシ、アンジェロ	デカセギ文学」を追って	『日本経済新聞』、朝刊、文化欄	2024年1月26日
49	芹澤隆道	シンガポールの日本語フリーペーパー「Asia X」	木谷公哉、神谷俊郎、小林磨理恵編『東南アジア逐次刊行物 第2編』京都大学東南アジア地域研究研究所	2023年 https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/activity/publications/seap2/
50	李定恩	【研究ノート】アジアへ移動するトランスナショナルな教育消費者—フィリピンの韓国系英語学校の韓国人留学生の事例を中心に	『コリアンスタディーズ』11: 64-75.	2023年
51	李定恩	《エッセイ》フィリピンの都市・英語学校のまちとなった「クラーク」と若者たちの移動	《アジア・日本研究 Web マガジン》アジア・マップ』2, PH. 4. 01.	2023年
52	李定恩	【書評】『在韓米軍と韓国地域社会—米軍の基地運営と米軍関係政策—』琴普云著、溪水社出版、2023年	立命館アジア・日本研究学術年報、第5号.	
53	北村理依子	【現代社会を読み解く】移民受容—現代ヨーロッパにみる移民との共生可能性	立命館アカデミックセンター 講義ハイブリッド型: 会場 (船鉾町会所) + ウェビナー	2023年11月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	石田雅芳	イタリア料理アカデミー	Giovanni Nuvoletti 賞	イタリア料理の伝統の保護とその普及、発展に寄与	2024年1月
2	渡部瑞希	観光学術学会	教育・啓蒙著作賞	基礎概念から学ぶ観光人類学	2023年7月
3	遠藤英樹	観光学術学会	観光企画・作品賞	フィールドワークの現代思想	2023年7月
4	寺澤優	奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター	第18回女性史学賞	戦前日本の私娼・性風俗産業と大衆社会 売買春・恋愛の近現代史	2024年1月

7. 科学研究費助成事業 (科研費)						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	神田孝治	観光学 3.0 へ向けたツーリズム・モビリティの再考	基盤研究(B)	2021年4月	2024年3月	代表
2	高田剛司	ガストロノミーツーリズムにおける価値共創に関する研究	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	分担
3	種田博之	HPV ワクチンの勧奨接種再開をめぐる「boundary work (境界作業)」	基盤研究(C)	2023年4月	2026年3月	代表
4	種田博之	薬害 HIV 感染被害者のライフストーリーから社会・心理的支援を構築する	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	分担
5	種田博之	薬害をめぐるコンフリクトと制度化	基盤研究(B)	2023年4月	2026年3月	分担
6	薬師寺浩之	開発途上国におけるホームステイを中核とした観光開発に関する国際比較研究	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	分担
7	薬師寺浩之	観光者の旅行行動や経験に関するネットノグラフィー調査を用いた研究	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
8	間中光	観光からの分散・代用戦略とレジリエンスに関する研究	若手研究	2021年4月	2024年3月	代表
9	間中光	パンデミック時代の人口減少地域の観光による持続可能なコミュニティ作りへの比較研究	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	分担

10	安田慎	イスラミック・ツーリズムにおける観光経験の宗教資源フローをめぐる実証研究	基盤研究(B)	2020年4月	2025年3月	代表
11	渡部瑞希	観光における不確実性とリスク——不安と分断に抗する観光実践への理論的展望	基盤研究(B)	2022年4月	2025年3月	分担
12	谷崎友紀	視覚資料の空間表現に関する歴史地理学的研究——英語圏地理学の理論と東洋美術の節点	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	分担
13	松田亮三	多様化する社会における福祉体制の動態——日韓比較研究を通じた理論開発	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	代表
14	加藤雅俊	「家族主義レジーム」の変容に関する国際比較研究	基盤研究(B)	2021年4月	2024年3月	代表
15	小林ハッサル柔子	太平洋戦争と国際移動のグローバル史——アジア地域からオーストラリアへの疎開者の歴史	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	代表
16	亀井大輔	20世紀フランス思想におけるハイデガ〜とベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	代表
17	亀井大輔	ジャック・デリダの講義録「責任の問い」の思想史的研究と国際的研究基盤の構築	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	分担
18	鈴木崇志	「二人称の他者」の現象学:その形成史と現代的意義の研究	若手研究	2022年4月	2025年3月	代表
19	加國尚志	フランス実存主義哲学の日本での受容についての基礎的研究	基盤研究(C)	2023年4月	2025年3月	代表
20	加國尚志	メルロ＝ポンティの中・後期草稿の研究——原テキストの確定のために	基盤研究(C)	2022年4月	2024年3月	分担
21	永守伸年	「信頼の多層モデル」に基づく道徳の規範性の解明	若手研究	2022年4月	2026年3月	代表
22	伊勢俊彦	日常的思考と行動の基盤の不安定化・喪失からの回復にかんする哲学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	代表
23	横田祐美子	20世紀フランス思想における文学と哲学の交差——バタイユ思想を起点として	若手研究	2022年4月	2026年3月	代表
24	松田智裕	19世紀の哲学教育論と戦後フランスの教育改革運動に関する思想史的研究	若手研究	2023年4月	2026年3月	代表
25	柳川耕平	食欲現象の現象学的・時間論的検討	若手研究	2023年4月	2025年3月	代表
26	有村直輝	ホワイトヘッドの「思弁哲学」研究:19〜20世紀の科学哲学との関連から	研究活動スタート支援	2022年8月	2024年3月	代表
27	井上充幸	名古屋市蓬左文庫蔵『銅人シユ穴鍼灸図経』に見る17世紀東アジア文化交流史の具体相	基盤研究(B)	2023年4月	2025年3月	代表
28	園田節子	越境政治の国際比較:出国者を包摂する近現代の送出国と社会の研究	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	代表
29	園田節子	接近する東アジアとラテンアメリカー新たな太平洋世界の形成ー	基盤研究(A)	2023年4月	2027年3月	分担
30	岸川毅	越境政治の国際比較:出国者を包摂する近現代の送出国と社会の研究	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	分担
31	岸川毅	接近する東アジアとラテンアメリカー新たな太平洋世界の形成ー	基盤研究(A)	2023年4月	2027年3月	代表
32	平石貴士	現代日本の文化と不平等に関する社会学的研究:社会調査を通じた理論構築に関する研究	基盤研究(B)	2022年4月	2024年3月	分担
33	平石貴士	ポピュラー音楽のライブ体験がもたらす美的再帰性に関する考察	基盤研究(C)	2023年4月	2025年3月	分担
34	西田彰一	戦前期日本の内務省と水野錬太郎の政治思想史研究	若手研究	2021年4月	2026年3月	代表
35	吉田武弘	「代表」されるべき「公議」と貴衆両院制の出發	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
36	真杉侑里	近代日本における買売春政策の決定過程の解明にみる社会動向	若手研究	2023年4月	2027年3月	代表

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	谷崎友紀	学生が考案した電動モビリティを利用した観光プラン「モビと島が出会う旅」	トヨタカローラ香川株式会社	2023年4月	2024年3月	代表

